

すけざえもん
牧助左衛門（普請組） — とせ
登世（妻）

ぶんしろろう
牧文四郎（養子→郷村出役見習 →郡奉行）

はつとりいちざえもん
服部市左衛門（文四郎の実の兄）、かべい
嘉平（下男）、はる（はしため
婢）

じんべえ
小柳甚兵衛（普請組→御蔵方） — ます（妻）、ふく（長女）、やす（次女）

じゅうすけ
山岸重助（普請組）

はんのじょう
石塚半之丞 — ときえ
季枝（妻 文四郎の姉）

かめじ
岡崎亀次（青苧蔵役）、せつ（次女 文四郎の妻）

いっぺい
小和田逸平（文四郎の友達 小姓組の息子 →御書院目付） — ことよ
琴代（妻）

よのすけ
島崎与之助（文四郎の友達 ろううるし
蠟漆 役の息子 →助教 →学監）

いこまれいすけ
居駒礼助（私塾）

いしぐりやざえもん
石栗弥左衛門（道場主 鍛冶町）

きんじゅうろう
佐竹金十郎（師範代 御馬乗り役）、しゅんさく
丸岡俊作（次席）

いちのしん
大橋市之進（席次三番）、じんすけ
塚原甚之助（席次四番）

さくのじょう
矢田作之丞（席次五番 御納戸役） — よしえ
淑江（妻）

やすけ
野田弥助（席次六番）

ひょうま
犬飼兵馬（御使番の次男）

おきつんのじょう
興津新之丞（松川道場）

せいじろう おかちしら
山根清次郎（御徒頭の息子）、みちぞう
杉内道蔵（郷方廻りの息子）

きげん
小野喜玄（道場主）、みやげとうえもん
三宅藤右衛門（師範代）

そうろく ふせつるのすけ
石川惣六、布施鶴之助（淑江の弟）

うきょうたゆうまさのり 右京太夫正威（藩主） — ねい 寧（正室）、亀三郎（嫡子 志摩守）

おふね（江戸の側室）、まつのじょう 松之丞（おふねの子）

おまん（国元の側室）

おりべのしょう 加治織部 正（藩主の叔父 代官町の杉之森御殿）

ちゅうじろう 田宮 仲次郎（側用人）

たてわき 平田帯刀（家老）

さとむらさなひ 里村左内（次席家老→筆頭家老 →領外追放）

またすけ 横山又助（次席家老→筆頭家老）

さかきばらしゅり 榊原修理（→次席家老）

あきよげんぱ 秋吉玄番（月番家老）

とおやまうしのすけ 遠山牛之助（中老）

かねまつ 兼松熊之助（中老）

たださもん 多田左門（中老 →閉門）

ちゅうべえ 稲垣 忠兵衛（元中老 →郷入り）

くまき 尾形久万喜（大目付）

そうぞう 藤井宗蔵（番頭）

こもだそうべえ 菰田庄兵衛（番頭）

かしむらやすけ 榎村弥助（郡奉行）

浅井平三郎（→町奉行）

あいばそうろく 相羽惣六（普請奉行助役）

しんぞう 吉村信蔵（御蔵方）

いくのしん 野瀬郁之進（奏者番 淑江の情夫）

いそがいしろうた 磯貝四郎太（御兵具役）

またぞう 青木孫蔵（郷方廻り）

しちろうえもん 村上七郎右衛門（御小姓組→馬廻組 →家禄半減）

かんじゅうろう 堀江勘十郎（組頭）

やいちろう 一柳弥一郎（御小姓組）

さんたろう 遠藤三太郎（御小姓組）

しんさく 関口晋作（足軽目付）

しげじゅうろう 大浦郡代官所、中山茂十郎（代官手代）、とくすけ 徳助（下男）

しばはらけんじろう 柴原研次郎（藩校の学監）、しゅんぞう 石倉俊蔵（助教）

かさいらんどう 葛西蘭堂（江戸の朱子学者）

とうじろう 藤次郎（金井村の村役人）、長之助、伊作

いそがいかずえ 磯貝主計（金井村護衛）

きぬたや 砧屋、おとら、おきみ、およし